

2005 年度（平成 17 年度）事業計画

2005 年度は、2005 年 4 月 1 日から既にスタートしている。2005 年度の事業計画及び予算については、2005 年 5 月 14 日の理事会(ニュースレター No.29 で報告)および 2005 年 9 月 10 日の理事会において検討審議された。以下、2005 年度のこれまでの活動実施報告を含めて事業計画を示す。

1. 会誌の発行

8 巻 1 号(2005 年 8 月 8 日 既刊)、特集「森・川・海の自然連鎖系を重視した有明海・八代海の再生」

8 巻 2 号(2005 年 1 月発行予定)、特集「野生生物の生息適地推定と保全計画」(仮題)

以降の特集予定

・「実用を目的とした水域の生態モデルとその実用化の現状と今後の展望」(仮題)

・「河川における水際環境の構造と機能の評価」(課題)

2. ニュースレターの発行

No.29 (2005 年 5 月 20 日発行)

No.30 (2005 年 7 月 20 日発行): 第 9 回大会案内等

No.31 (2005 年 11 月発行予定): 大会報告、新役員挨拶、行事参加報告等

No.32 (2006 年 2 月発行予定): 行事参加報告、会費納入依頼等

3. ワークショップ等の開催

<方針>

普及委員会行事と限定せず、地域研究会および各委員会の積極的な活動により普及および研修の企画を立て実施する。

また、後援に関しては応用生態工学研究および普及に資する行事であれば、学会名の周知の機会でもあるので名義使用を許可し、広報等に協力する。

● 主催・共催行事

(共催) ワークショップ「河川環境目標への科学的アプローチは可能か - 考え方と実際 - 」

6/7 200 名参加 東京鈴乃屋ホール

応用生態工学会札幌「溪流・河川横断構造物の切り下げ(スリットを含む) セミナー」 7/19-20

67 名参加 北海道室蘭市・八雲町ほか オプション: 知床・標津川

(共催) 第 3 回日韓河川生態セミナー 7/19 68 名参加 名古屋大学

応用生態工学会札幌「溪流・河川横断構造物の切り下げ(スリットを含む) セミナー」 8/25

104 名参加 札幌市教育文化会館

地域の行事 第 2 回中国ワークショップ in 山口 8/26-27 160 名参加 現地および山口県セミナーパーク

.....ここまで終了

応用生態工学会編集委員会「ミニシンポジウム - 応用生態工学研究の作法 生態学と土木工学の習慣を乗り越えて」10/1 科学技術館サイエンスホール

(共催) 土砂管理とダムに関する国際シンポジウム 10/24-29 (シンポジウムは 10/25) 東京電力電気の史料館ミュージアムホール

応用生態工学会金沢 第4回北陸ワークショップ in 金沢「加賀の風土 - 水と生き物を考える」
11/11-12 現場および金沢市観光会館
交流委員会 “農業土木関係との連携をテーマに企画”
地域の行事 第3回東北ワークショップ企画

平成18年度

(共催) ICLEE (International Consortium of Landscape and Environmental Engineering)
による行事 ICLEE2006 International Conference on Ecological Restoration, Osaka
2006/6/16-18 大阪万博記念公園付近

● 後援行事

シンポジウム「鳥類を蘇らせる方法」 8/28 (兵庫県立人と自然の博物館)
第2回日韓合同陸水シンポジウム - 次世代のための陸水の環境教育 - 9/16-17 (大阪国際交流センター)
「第8回水源生態研究セミナー」 9/29 (東京・星陵会館)(後援)
河川生態系連続講演会「流域生態系を育む河川ネットワーク ~ “つながり”の中の河川~」
10/11~3/8 計6回 東京海洋大学楽水会館大ホール
「淡水魚保全シンポジウム岐阜大会」 11/18-19 (大垣市情報工房)

平成18年度

「生態モデリング国際会議 ICEM2006」 2006/8/28-9/1 (山口大学)

4. 国際交流・海外学会等への派遣(交流委員会)

2005年5月に募集を開始し、1名の応募があった。7月に交流委員会を開催し派遣の是非と助成額を検討し、下記のとおり派遣を決定した。

(派遣先) IAHR 2005 (the International Association of Hydraulic Engineering and Research)
2005年9月11~16日 韓国・ソウル
(派遣研究員) 1名 渡航費として10万円を助成

5. 公開シンポジウムの開催

国際交流の一環として、2000年度を初回として実施してきた公開シンポジウムは当初の5回の予定を昨年度で終了した。

本年度は新たに「比較応用生態工学」をテーマに公開シンポジウムを開催する。

開催にあたって河川整備基金を「応用生態工学の現場適用を指向する比較応用生態工学の研究」として申請し、2005年5月27日付けで、200万円の助成が決定された。

9月30日の第9回大会時に、公開シンポジウム『比較応用生態工学 - 生態系・風土そして文化』を一般公開として開催する。招聘講師は、中国香港大学デビッド・ダジョン教授である。

6. 地域での活動(普及委員会関係)

本年度は新たに下記の「地域研究会」を組織する。

「応用生態工学会金沢」、「応用生態工学会富山」、「応用生態工学会新潟」

(参考) これまで組織された地域研究会

「応用生態工学会札幌」、「応用生態工学会仙台」、「応用生態工学会東京」、「応用生態工学会名古屋」、「応用生態工学会大阪」、「応用生態工学会広島」、「応用生態工学会福岡」